

ボスニア・ヘルツェゴビナ(BH)情勢月報(2021年2月分)

2021年3月

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

目次(以下は主なトピックを抜粋)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●[新型コロナウイルス、BH国内で感染再拡大の傾向\(1～28日\)](#)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●[コルディッチ新モスタル市長の就任\(15日\)](#)

イ. スルプスカ共和国(RS)

●[RS、医療関係者に対する新型コロナウイルスのワクチン接種を開始\(12日\)](#)

●[スレブレニツァ市およびドボイ市における地方選挙の一部やり直し投票の実施\(21日\)](#)

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●[インツコ上級代表、RS国民議会に対し過去の議会表彰の一部取り消しを要請\(3日\)](#)

●[ドディック大統領評議会議長、「17+1」のオンライン会合に出席\(8日\)](#)

●[BH大統領評議会、シュミット次期上級代表候補と電話会談\(25、26日、3月4日\)](#)

(2) 二国間関係

(3) 日・BH関係

●[日・BH外交関係樹立25周年記念書簡の交換\(9日\)](#)

●[伊藤駐BH日本大使のBH要人への着任表敬](#)

3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●[BH政府、世銀から5,600万ユーロを借り入れで合意\(8日\)](#)

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

(3) 民間セクター

●[日本のツバキ・ナカシマ社がBH国内の工場拡大の方針\(16日\)](#)

(注:この月報は、当地紙報道などの公開情報をとりまとめたものです。)

1. 国内情勢

(1) 国家レベル

●新型コロナウイルス、BH国内で感染再拡大の傾向(1～28日)

BHでは、本年初頭には落ち着いていた新型コロナウイルスの感染状況が再び悪化の傾向。新規感染者数では、2月初頭には一日平均100人程度であったが、2月末には同500人程度に迫るまで上昇し、2月半ばに英国変異株も確認。なお、2月の新規感染者総数は9,939人。

●ラグムジャ新高等司法検察評議会議長が就任(10日)

ラグムジャ新BH高等司法検察評議会(HJPC)議長(ボシュニャク系)が就任。本件をめぐっては、昨年12月に汚職疑惑を受け当時のテゲルティヤ前議長(セルビア系)が辞任。ラグムジャ新議長は、汚職撲滅およびBHのEU加盟に向けた司法改革の取組への意欲を述べた。一方で、ドディック大統領評議会議長(セルビア系)は、同議長の選出が違法に行われた旨主張するなど、HJPCに対する批判を強めている。

●BH議会、新型コロナウイルスのワクチン直接調達に向け関連法改正案を審議(25日、3月2日)

BH議会は、COVAXメカニズムを通じた新型コロナウイルスのワクチン調達の遅れを背景に、製薬会社からの直接調達実施に向け公共調達法改正案を審議。25日、BH議会下院は全会一致で同改正案を承認したが、3月2日にBH議会上院で行われた審議ではセルビア系議員団が反対の立場に転じ、改正法の成立は持ち越された。(注:その後、改正法は

結局成立せず。)

(2) エンティティ、特別区

ア. ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦(BH連邦)

●コルディッチ新モスタル市長の就任(15日)

BH連邦のモスタル市議会で新市長選出投票が実施され、第三回目投票の結果、議会最大政党のHDZ(クロアチア系与党)所属議員のほか、クロアチア共和主義者党(HRS)およびセルビア系政党連合所属議員の支持を得たコルディッチ候補(HDZ所属)が当選し、市長に就任。なお、同選挙にはこのほかSDA(ボシュニャク系与党第一党)および中道左派市民主義政党である「我々の党」(NS)の所属議員も立候補していた。

●SDAとHDZ、選挙法改正協議などに向けた合同作業部会の設置で合意(23日)

イゼトベゴビッチSDA党首とチョービッチHDZ党首が会談し、2018年国政選挙の結果を受けたBH連邦新政権の発足、昨年6月の両党合意に基づく選挙法改正、BHのEU加盟に向けた国内改革の実施加速化などを目的に、両党の合同作業部会を設置することで合意した。

イ. スルブスカ共和国(RS)

●RS、医療関係者に対する新型コロナウイルスのワクチン接種を開始(12日)

スルブスカ共和国(RS)が域内の医療関係者に対する新型コロナウイルスのワクチン接種を開始。RSは2月初めに露製ワクチン2,000回分を調達しており、2月末までに同ワクチンが更に2万回分が到着予定。

●スレブレニツァ市およびドボイ市における地

方選挙の一部やり直し投票の実施(21日)

RSのスレブレニツァ市およびドボイ市で昨年11月地方選挙の一部やり直し投票が実施され、BH中央選管(CEC)発表の暫定結果によれば、両市でSNSD所属の市長候補が勝利する見込み(注:3月3日、CECは同結果を確定)。なお、スレブレニツァ市の選挙をめぐり、SDAを中心とするボシュニャク系政党連合はCECによる選挙不正対応が不十分として、同市在住のボシュニャク系住民に対して投票行動のボイコットを呼びかけていた。

2. 外政

(1) 多国間、国際・地域機構(EU加盟プロセスを含む)

●インツコ上級代表、RS国民議会に対し過去の議会表彰の一部取り消しを要請(3日)

インツコ上級代表がRS国民議会に対し書簡を送付。インツコ上級代表は、同議会が2016年、議会発展への貢献を称えるとして、旧ユーゴ国際刑事裁判所からBH紛争中の戦争犯罪行為をめぐり有罪判決を受けているカラジッチ元RS指導者等に特別表彰を行ったことは戦犯礼賛行為にあたり許容できないとして、本年4月末までに同表彰を取り消すことを要請した。一方で、ドディック大統領評議会議長は同書簡に従う考えはない旨述べ、インツコ上級代表を批判した。

●ドディック大統領評議会議長、上級代表後任人事を牽制する発言(6、26日)

上級代表後任人事をめぐり、ドディック大統領評議会議長がシュミット候補(ドイツ人)の選出に向けた動きを牽制する発言。ドディック議長は、PIC・SBメンバー国が Dayton 和平合意の恣意的解釈に依拠して付与したボン・パ

ワーに基づく歴代上級代表の活動は国際法違反であると非難。その上で同議長は、OHRの早期閉鎖及び上級代表制度の廃止を求める従来の立場を重ねて示し、上級代表就任後のシュミット候補との協力に関しても否定的な態度を示した。

●ドディック大統領評議会議長、「17+1」のオンライン会合に出席(8日)

中国が主導する同国と中・東欧地域17か国の「17+1」首脳級オンライン会合が開催され、BHからドディック大統領評議会議長が出席。ドディック議長は「17+1」を通じた協力の重要性を指摘するとともに、習近平中国国家主席が提唱する人類未来共同社会構想を支持する旨述べた。

●ヨハンソン欧州委員会内務委員のBH訪問(18～19日)

ヨハンソン欧州委員会内務委員がBHを訪問、同国西端ビハチ市郊外のリバ移民・難民収容施設を視察したほか、移民・難民問題をめぐりBH大統領評議会を始めとするBH要人と会談を行った。ヨハンソン委員が不法移民問題へのBHの対応強化を要請したのに対し、BH側は、国としての取組強化の意向を述べる一方で、国内に滞留する移民・難民数はBHの受入れ能力を既に超過しているとして、問題解決に向けたEUからの更なる支援を要請した。

●BH大統領評議会、シュミット次期上級代表候補と電話会談(25、26日、3月4日)

BH大統領評議会3メンバーがシュミット次期上級代表候補とそれぞれ電話会談を実施。ジャフェロビッチ・ボシュニャク系メンバーおよ

ピコムシッチ・クロアチア系メンバーはBHにおける上級代表の役割の重要性を強調するとともに、 Dayton 和平合意の履行およびEU加盟プロセスの前進に向けた支援を要請。他方でドディック議長は、OHRの早期閉鎖を求める従来姿勢を重ねて示し、BHにおける上級代表の活動を牽制した。

(2) 二国間関係

● イゼトベゴビッチSDA党首がパルマー米 務次官補代理と電話会談(17日)

イゼトベゴビッチSDA党首(BH議会上院副議長)がパルマー米務次官補代理兼西バルカン担当特使と会談。両者はBHがEUおよびNATO加盟に向けた取組を加速化する必要があるとの見方を共有した。

● パクデミルリ・トルコ農業・森林相のBH訪問 (25日)

BH大統領評議会3メンバーは、BHを訪問中のパクデミルリ・トルコ農業・森林相との会談を実施。両者は、3月にBH大統領評議会3メンバーがトルコを訪問し、エルドアン同国大統領との間で署名予定のサラエボ・ベオグラード間高速道路建設にかかる協力に関する覚書のほか、両国自由貿易協定および両国の森林政策につき話し合った。

(3) 日・BH関係

● 日・BH外交関係樹立25周年記念書簡 の交換(9日)

伊藤駐BH日本大使はテゲルティヤBH閣僚評議会議長(BH政府首相に相当)およびトウルコビッチ副首相兼外相との間で、日・BH外交関係樹立25周年を記念

する菅義偉内閣総理大臣とテゲルティヤBH閣僚評議会議長、および茂木敏充外務大臣とトウルコビッチ副首相兼外相の書簡の交換を行った。



(写真: 伊藤大使とテゲルティヤ閣僚評議会議長)

● 伊藤駐BH日本大使のBH要人への着 任表敬

伊藤駐BH日本大使は、コムシッチ大統領評議会クロアチア系メンバー、シュピリッチBH議会上院議長、ツィコティッチ治安大臣、ポジッチ国防大臣、フォルト・サラエボ・カントン首相にそれぞれ着任表敬を行った。各会談では様々な分野における日・BH関係の強化などにつき話し合い、各要人からは、長年に渡る日本の開発協力に対する謝意が述べられた。



3. 経済

(1) 経済政策・公共事業

●BH政府、世銀から5,600万ユーロを借り入れて合意(8日)

ベバンダBH財相とサリナス当地世銀事務所長は、新型コロナウイルス問題の影響を受けたBH国内中小企業の支援に向けた財源確保を目的に、世銀が5,600万ユーロの対BH融資を行う旨の合意文書に署名した。

(2) 経済協力(新型コロナウイルス対策支援を含む)

●スウェーデン、新型コロナウイルス対策で対BH支援(3日)

スウェーデンは、BHの新型コロナウイルス対策支援の一環として、UNDPを通じてバニャ・ルカ大学病院などに対し医療防護用品約5万ユーロ相当分を供与した。

●EU、BH国内の失業者就労支援に400万ユーロの資金援助を実施(11日)

EUは、BH国内の失業者に対する就労支

援の拡充を目的として、官民共同で行われる20の失業者支援プロジェクトに対して400万ユーロの資金援助を実施。新型コロナウイルス問題の発生後、BHでは国内経済への影響により失業率が2.86%上昇しており、EUは失業者の就労支援の必要性は従来以上に高まっているとして、同支援の重要性を強調している。

(3) 民間セクター

●日本のツバキ・ナカシマ社がBH国内の工場拡大の方針(16日)

BH対外投資促進庁(FIPA)によれば、欧州各国向けに自動車および鉄道関連部品を生産している日本のツバキ・ナカシマ社が、BH中部コニッツ市にある同社工場を拡大する方針。また、今回の工場拡大を受け、同社は現在約150人の工場従業員を今後倍増する見通し。